

2017年度 活動概況と2018年度 方向性

2017年10月、ベネッセこども基金は設立丸3年を迎えました。

この間、各テーマにおいて先進的な取り組みのある団体や病院、大学などとの連携により、学びのプログラムやモデルづくりに取り組んでまいりました。2017年度は、特集でもご紹介している通り、これまでのトライアルが具体的な成果として結実した年でした。

また助成事業につきましても、個々の団体への支援だけでなく、団体との接点から把握した、共通課題を解決するための新たな事業にも着手しました。

2018年度は、これまでの成果を踏まえ、新たなフェーズへの一歩を踏み出す年として位置づけ、子どもたちにとってさらに意義ある活動を目指してまいります。

活動全体像とテーマ

下記の活動テーマで、「自主事業」と「助成事業」を組み合わせながら、子どもの学びの機会支援とそのため環境づくりに取り組んでいます。

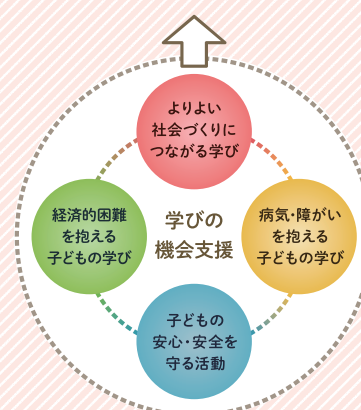
自主事業

ベネッセこども基金自らが、事業を企画・実施し子どもたちを支援

助成事業

地域で、テーマに沿った子ども支援に取り組む団体への助成を通じて、子どもたちを支援

子どもが自らの可能性
広げられる社会



活動テーマ	自主事業	助成事業
<u>子どもの安心・安全を守る活動</u>	○	
<u>経済的困難を抱える子どもの学び支援</u>	○	○
<u>重い病気や障がいを抱える子どもの学び支援</u>	○	○
<u>よりよい社会づくりにつながる学び支援</u>	○	
<u>(災害支援) 被災地の子どもたちの学びや育ちの支援</u>		○

※災害発生時の緊急支援及び復興支援

子どもの安心・安全を守る活動

子どもの安心・安全な環境づくりのためには、「子どもが自分自身を守る力を高めること」と「地域の見守り力を高めること」の両輪が必要です。

専門家とも連携し、地域で活動する方々が直接指導できる教育プログラムの開発や、活動する方々のサポートに取り組んでいます。

教育プログラムの開発・普及

防災



防災教育紙芝居
「じしんのときの おやくそく」
のべ9,000以上の
保育園・幼稚園で活用

防犯



小学生と保護者のための「子どもの安全・安心ハンドブック」と安全教室実施パッケージ
全国の学校や地域で約6.4万部活用

情報モラル



小学生と保護者のための「初めてのスマホ安心ガイドブック」と安全教室実施パッケージ
⇒P11～13掲載

※活用数はすべて2018年3月時点

2017年
NEW

情報発信でのサポート



サイトの
リニューアルで、
プログラムの
お申し込みが
簡単になりました！

安全力の向上を目指す方への情報発信サイト
「子どもの安全サポーターズ広場」
<https://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/anzen/index.html>

2018年度は

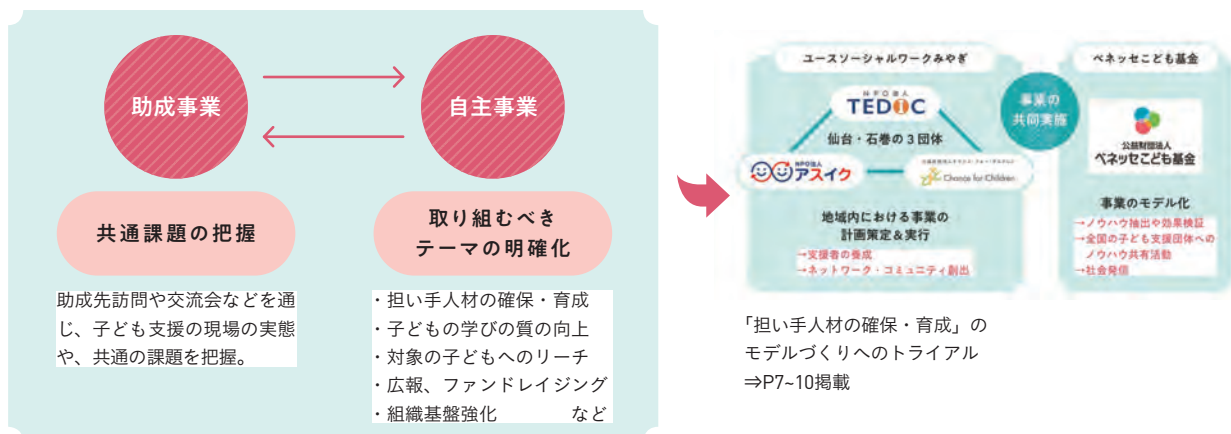


小学生向けのプログラムを充実させることができたので、より多くの方に活用いただけるよう、普及拡大を目指します。見本送付や講師向け研修など、広くプログラムの認知を高め、必要としている方にお届けできるようにしていきます。

経済的困難を抱える子どもの学び支援

日本において深刻化する社会課題である「子どもの貧困」に対する取り組み。主には助成事業を通じて、地域での活動を支援するとともに、助成団

体相互のノウハウ共有やネットワーク化にも努めています。加えて自主事業として、団体共通の課題解決のモデルづくりにも取り組んでいます。



2018年度は



引き続き「担い手人材の確保・育成」のモデルづくりに取り組むと共に、新たなテーマとして、「支援現場における学びの質向上」のための活動をスタートします。

重い病気や障がいを抱える子どもの学び支援

重い病気や障がいによって、学びに対するサポートを必要としている子どもとその保護者に対して、病院・学校・活動団体や専門家等と連携し、

有効な学びのモデルづくりや情報提供などを通じた支援を行っています。

院内学級での学び支援プロジェクト



東京都内の特別支援学校4校と連携し、分身ロボットOriHimeを活用した学び支援プロジェクト

特別支援学校・校長会での成果発表など、社会発信も!



発達障がいがある子どもの学び支援

情報提供による支援



発達障がい支援サイトメール&リンク
<https://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/yellandlink/index.html>

リアルな場での支援



発達障がい支援ワークショップ「音と光の動物園」⇒P3~6掲載

2018年度は



引き続き、有効な学びモデルづくりや情報提供などを行いながら、支援者を広げるために社会発信の強化を検討します。発達障がい支援ワークショップは、全国への展開を予定しています。

よりよい社会づくりにつながる学び支援

「ソーシャルリーダーシップ」=「地域やコミュニティに主体的に関わり、社会をよりよくしていく一人としての役割を果たすことができる力」であり、

未来を生きる子どもたち全員に必要な能力であると定義。先進的な取り組みがある団体と連携しながら、よりよい社会をつくる子どもたちを育成。

親子でチャレンジ国際理解! ちびっこおえかきコンテスト



「親子でチャレンジ国際理解!ちびっこおえかきコンテスト」
[認定NPO法人グッドネーバース・ジャパン連携]
就学前の子どもたちが、発展途上国の問題について学ぶ教育プログラム。
入賞作品は専用サイトからご覧いただけます。
<http://chibikko-oekaki.org/5th/>

2017年度結果
応募数 1,840 作品
参加数 101 園
2月17日の表彰式には、受賞した園児 34 名とご家族や園の先生など約 100 名が参加されました。



国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE 日本版」



全国の小中高特支学校に配布する教材を1年かけて開発、制作し、2018年6月に届けました。

国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE 日本版」
[公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会/日本財団パラリンピックサポートセンター連携]
共生社会を目指す教材を共同開発し、全国の小中高特支学校にお届け。

「高校生英語ディベートチームジャパン派遣プログラム」[一般社団法人全国高校英語ディベート連盟国際委員会連携]なども実施

2018年度は



2017年度までのテーマは踏襲。国際パラリンピック委員会公認パラリンピック教材は、2019年春に向けて、小学生版第3弾、中高校生版第2弾を制作します。さらに、当財団の強みを活かせるテーマでの新規の取り組みも検討していきます。

助成事業

2017年度テーマ

重い病気を抱える子どもたちの学び支援活動助成

経済的困難を抱える子どもたちの学び支援活動助成

災害地の子どもたちの学びや育ちの支援活動助成

各テーマともに、課題解決に向けた問題提起やユニークな視点を含んだ企画であり、同じ課題に取り組む人たちが参考にできるモデルとなることが期待できる活動を対象として助成を行っています。

→助成実績はP18~20

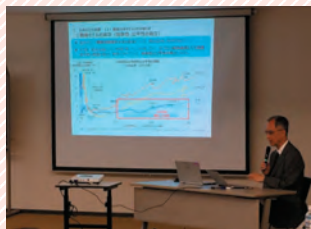
助成団体相互のノウハウ共有やネットワークづくり支援

【重い病気】団体交流会

2017年6月12日(月)～13日(火)

1日目 ベネッセこども基金 五十嵐隆理事長講演
「これからの小児医療と小児保健」
各団体からの活動報告、懇親会

2日目 視察 株式会社オリィ研究所



- ・五十嵐理事長より、小児医療の諸外国の違いや先進事例などを共有。ふだん聞く機会がない話に、参加者の満足度は高かった。
- ・活動報告では質疑応答の時間を多くとり、じっくり意見交換。各団体の悩みに対して他団体からの実践的アドバイスが多く寄せられた。

【経済】【災害地】団体交流会(2テーマ合同)

①2017年 11月29日(水)～11月30日(木)

②2017年 12月18日(月)～12月19日(火)

1日目 各団体からの活動報告、
共通課題の抽出、懇親会

2日目 共通テーマ・課題についての
グループディスカッション

※ NPO法人エティックが
ファシリテーターとして参画



- ・ディスカッションのテーマは「人材育成」「アウトリーチ」「学びの質とは」「広報活動」など。
- ・各自関心のあるテーマを選択したグループに分かれて実施。ファシリテーターが論点を整理することで、議論が深まり、持ち帰って自団体に生かしたいといった声も聞かれた。

2018年度の助成事業の方向性

3か年の助成事業を実施する中で、様々な気づきを得ました。より地域ごとの多様性をふまえた戦略性・モデル性のある取り組みの創出ができるよう、2018年度から新たな助成プランをスタートします。左記2テーマの募集を予定しています。

重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成

経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成